

充実した大学4年間で 人生の基礎を築き、 建築士の道を歩む。

卒業制作での受賞が、 人生の転機になった。

愛知淑徳大学での学生生活を振り返ると、人生の基盤となる日々だったと思います。都市環境デザインコース(現・創造表現学部創造表現学科建築・インテリアデザイン専攻)の製図室がある8号棟5階に入り浸り、同じコースの仲間と刺激し合って建築設計に没頭しました。ゼミの高橋敏郎先生の研究室にも通って建築談議を重ね、進路相談を何度もしました。また、在学中は海外旅行も楽しみ、多様な人と出会った時に世界が広がって、生きる力が鍛えられたと感じています。

大きな転機は卒業制作です。学校と市場を融合させた施設を設計しました。子どもたちが学び、手に職をつける場所であるとともに、商業施設や観光施設としての機能も持たせました。その着想を得たのが、3年次

に参加したベトナム・カンボジアのスタディーツアーです。途上国の都市化と貧困という両極端の現実に衝撃を受けて、社会問題の解決に役立つ建築を設計しようとして試行錯誤しました。結果、学内の卒業制作展で優秀賞、全国の建築系大学の学生がめざす「せんだいデザインリーグ2008卒業設計日本二決定戦」で特別賞、東海地区卒業設計合同展で金賞をいただき、建築の道を進む決意が固まりました。

自分の可能性を広げて グローバルに挑戦。

卒業後は設計会社に就職し、社会人3年目に一級建築士を取得。その後、独立を見据えて設計事務所ですらなる実務経験を積み重ね、2015年に自分の事務所を設立しました。以来、5年間で住宅や店舗を20件ほど手掛け、商店街の再生といった地域活性化プロジェクトにも建築士として取り

組んでいます。また、複数の建築系の大学で非常勤講師も務め、2020年度は後輩である学生たちと連携して商店街のイベントを実施しました。

建築士として大切にしていることは、人とのご縁です。人との出会いを通して仕事が届き、その一人ひとりの笑顔に貢献できる建築をつくりたいと常に考えています。デザイン性だけではなく、人やまちの未来を見つめて、豊かな日々が長く続いていくような設計を心掛けています。建築による地域活性化をライフワークにして、今後も人々の生活やまちをよりよくするアイデアを形にします。

愛知淑徳大学で学ぶ皆さんに伝えたいのは、好きなことに熱中できる学生生活の貴重な時間を有意義に使うってほしいということ。スペシャリストの先生方や恵まれた学修環境を活用して、自分の道を拓いてください。



大学4年次、卒業制作の講習会の様子。授業では設計だけでなくプレゼンテーションの機会も豊富にあり、伝える力が鍛えられました。



名古屋市内の商店街の空き店舗を複合施設「ニシヤマネガヤ」に改修。ここに設計事務所を構え、地域の賑わい再生にも力を注いでいます。

一級建築士 植村 康平さん 植村康平建築設計事務所

愛知淑徳大学現代社会学部現代社会学科都市環境デザインコースを2008年3月に卒業。一級建築士を取得後、2015年に植村康平建築設計事務所を設立。2020年度、設計した複合施設「ニシヤマネガヤ」が第28回愛知まちなみ建築賞と第5回中部商空間賞銀賞を受賞。